會　務

第 22 卷 第 12 號　昭和 11 年 12 月

役　員　會

第 12 回理事會（昭 11. 10. 26）

出席者：　井上會長，辰馬副會長，萩原，藤井，沼田各理事

報　告

1. 10 月 22 日內閣總理大臣，內務大臣及法制局長官へ土木工事取締規則に關する建議をなし並に關係局課長へ右に就き考慮方を依頼せり。

2. 萬國橋梁構造會議へ本會代表として出席の堀越一三君より會議の模樣通報あり之を報告せり。

3. 日本工学會評議員會議事を報告せり。

4. 諸刊行物の豫約申込結果を次の通り報告せり。

丹那隧道工事誌	1265 部
土木工学用語集	2301 部
關西地方風水害調査報告	1136 部

議　事

1. 東亜連絡委員會委員に滿鉄伊澤東京支社長推薦の同社松村恭二君を依嘱することとせり。

2. 土木文化映畫作製委員會委員（鉄道關係）を次の通り依嘱することとせり。

大島末彦君，廣田孝一君

3. 役員會及委員會其の他の會合を別紙日程表（省略）の通り開催することとせり。

4. 11 月中に映畫會を開催することとし次回理事會までに案を作成することとす。

5. 萩原理事より辭任申出に依る理事並に經理部長の改選は來年度改選期まで留任とす。

6. 入退會の件

松村恭二君外 1 名を會員に，飯田好文君外 18 名を准員に，伊藤稔君外 24 名を学生員に入會を承認し，准員秋山辰藏君外 8 名を會員に，学生員久保田敬一君外 2 名を准員に転格承認せり。

7. 以上の外次の申合せをなす。

(1) 會員名簿には学位のみを登載すること。

第 13 回理事會（昭 11. 11. 2）

出席者：　井上會長，辰馬副會長，萩原，藤井，沼田，宮長，後藤各理事。

議　事

1. 土木土法案調査委員會委員に山崎匡輔君を追加依嘱することとせり。

2. 11 月 27 日（金曜日）映畫會を開催することとし映畫の種類に就ては沼田理事に一任せり。

3. 年次学術講演會 12 年度京都市に於ての開催準備に關しては關西支部に依頼することとし不日柴原書記長を派し打合せすることとせり。

4. 特許局に於ける土木技術者增員の件を建議することとし之を常議員會に諮ることとせり。

第 6 回常議員會（昭 11. 10. 26）

出席者：　井上會長，辰馬副會長，萩原，藤井，沼田，內田，加藤，滿，菊池，後藤(茂)，山田，吉田各常議員

報　告

1. 10 月 22 日內閣總理大臣，內務大臣及法制局長官へ土木取締法規に關する建議を爲し並に關係局課長へ右に就き考慮方を依頼せり。

2. 萬國橋梁構造會議へ本會代表として出席の堀越一三君より會議の模樣通報あり之を報告せり。

3. 日本工学會評議員會議事を報告せり。

4. 日本工学會工業博物館調査委員會の議事を報告せり。

5. 諸刊行物の豫約申込結果を次の通り報告せり。（理事會記事參照）

6. 東亜連絡委員會委員を滿鉄伊澤東京支社長推薦の同社員松村恭二君に依嘱せり。

7. 土木文化映畫作製委員會委員長及委員を次の通り依嘱せり。

委員長　金森誠之君

委　員　青木楠男君　大石義郎君　大島末彦君　片平信貴君　澤　勝藏君　廣田孝一君

8. 杭の支持力公式調査委員會委員長及委員を次の通り依嘱せり。

委員長　谷口三郎君

委　員　伊集院　久君　尾崎義一君　金森誠之君　笹森　巽君　鈴木清一君　土木　基君　富樫凱一君　德美義光君　松田亮治君　松村孫治君　山口　昇君　山田正平君　石田武雄君（幹事）　藤森謙一君（幹事）

9. 振興委員會第 3 部會委員を次の通り追加依嘱せり。

小宅習吉君　今井四郎君　飯島十郎君
土生　保君　柴田長一郎君

10. コンクリート調査委員會委員を次の通り追加依嘱せり。

松村孫治君　金子　柾君

11. 役員會及委員會其の他の會合を別紙日程表(省略)の通り開催することとせり。

12. 入退會の件を別紙(省略)の通り承認せり。

以上の外會長より次の事項を報告せり。

(1) 東京會館に於て開催の服部報公會總會に出席し，その模様。

(2) 土木学會關西支部第 9 回講演會に出席し，その模様並に支部交附金に關し。

(3) 仙臺市に於て開催の水道協會總會に出席し土木学會々長として講演を爲したり。

(4) 秋季視察旅行の狀況。

議　事

1. 年次学術講演會開催に關する件

下記原案を可決し昭和 12 年度の学術講演會は京都に於て開催することに申合せたり。

年次学術講演會開催に關する件

1. 東京其の他大学又は專門学校所在地を選び毎年 4 月土木学術講演會を開く但し日本工学會大會開催の年は本講演會を開催せざるものとす。
2. 講演會は凡て日本工学會大會土木部會に準じ會員より論文の提出及其の講演を求むるものとす。
3. 講演會の日數は 2 日間とし何れも午前中を講演，午後を視察見学とす。
4. 毎年の開催地及開催期日は理事會に於て之を定め毎年 1 月會誌上に豫告するものとす。
5. 開催地の学校當局及在住會員に講演委員會の設置を求め講演會開催に關する事務を依嘱す。
6. 講演會開催に關し直接必要とする經費は本會に於て之を負擔す。
7. 講演會には會長之に出席す會長事故あるときは副會長の内 1 名之に出席す。

總務部記事

第 4 回土木技術者相互規約調査委員會(昭 11. 10. 12)

出席者：中野，川口，金子，内海，德善各委員
藏重幹事　小野寺庶務主任

1. 前回會合の申合せにより當日各人の意見を持寄り協議する筈の處具體的草案の提出無き爲，止むを得ず幹事作製の草案を參考として各自意見の交換を爲せり，幹事作製の草案は下記の土木公德 5 則とす。

2. 各自の意見交換の結果次の如くせり。

A. 各方面より見て必要なる精神を織込みて草案の 5 則を 3 則とす。

B. 其の 3 則は次の主旨のものたらしめ之を土木技術家の信條と爲すこととせり。

其の 3 則の主旨は

(1) 日本國民精神を發揚し國家に貢獻すべし。
即ち日本精神發揚は時局に鑑みて必要なり又事業は國家的，技術は國際的たる可し。

(2) 技術の進歩向上に務め又其の技術を廣く社會に認識せしむべきなり。

(3) 技術の神聖を保持し相互の德義を重ぜしむべきなり。

3. 以上の主旨に基ける土木技術家の信條 3 則は下記の如くせり。

4. 此の信條に基き各委員は更に其の細目の草案を作製し次回に持寄ることとす。

5. 其の信條の細目に就ての草案作製上の區分を大体次の如くす。

A. 技術家一般相互關係
B. 企業者關係（即ち官公吏及會社として）
C. 施工者‥‥請負關係
D. 顧問關係

土木公德 5 則

(1) 土木技術家は土木事業の公共性に立脚し業務に當りては常に功利を捨て公正潔白なる態度を持すべし。

(2) 土木技術家は技術家本來の立場を自覺し他人の事業計畫其他に對する批判に當りては常に公平なる態度を持すべし。

(3) 土木技術家は常に技術一般の進歩向上の促進に專念すると同時に技術並に事務上相互扶助に努むべし。

(4) 土木技術家は業務上廣く社會に折衝すること多きに鑑み洽く社會情勢の諸般に括目すべし。

(5) 土木技術家は現業は素より時に応急的業務に對處すること多きに留意し事業の完璧能率增進の爲め常に心身を練磨すべし。

解　說

(1) 前回委員會の申合せに至極簡單なる土木公德とも言ふ可き原則的事項を選定せること。

(2) 5 箇條を選定するに際し次の5種目に準據せり。
1.德育，2. 智育，3. 技術，4. 常識，5. 体育。

(3) 各項の主旨
1. 公共性に立脚し清潔なれ，2. 相互間の態度に就て，3. 技術の向上及相互扶助に就て，4. 常識涵養の必要性，5. 心身の練磨。

土木技術家の信條

(1) 土木技術家は土木事業の公共性に立脚し公正潔白なる態度を持し常に日本國民精神に基き國家に貢獻すべし。

(2) 土木技術家は常に技術の進歩向上に務め其の眞價を廣く社會に認識せしむべし。

(3) 土木技術家は技術家本來の立場を自覺し公平なる態度を持し相互に德義を重んずべし。

第 5 回土木技術者相互規約調査委員會（昭 11.11. 9）

出席者 青山委員長，竹股，鈴木，金子，藤井，後藤，山口，德善の各委員，藏重幹事，小野寺庶務主任

1. 前回作製の土木技術者の信條3箇條を草案として更に審議す，其の修正案下記の如し，而して次回より細目の草案作製に進むこととせり。

2. 其の信條の細目に就ての草案作製上の區分は前回通りとす。

土木技術家の信條

(1) 土木技術家は土木事業の公共性に立脚し公正なる態度を持し常に技術を通し國運の進展に貢獻すべきものとす。

(2) 土木技術家は常に技術の進歩向上に努め其の眞價を廣く社會に認識せしむべし。

(3) 土木技術家は技術家本來の立場を自覺し眞摯なる態度を持し相互に德義を重んずべし。

第 6 回振興委員會第 2 部會（昭 11. 10. 15）

出席者： 古川委員長，阿曾沼，內海，河西，金子，榧木，田中，山口，佐藤，金森，荻野，稻葉，青木各委員，宮本總務部長，柴原書記長，小野寺庶務主任

1. 土木技術者の資格審査に關する法制局の內規改正を建議する資料として土木科設置の各学校（高等工学校程度）を調査し次回委員會に於て更に協議することとせり。

第 6 回振興委員會第 3 部會（昭 11. 10. 19）

出席者： 太田尾委員長，今井，小宅，奥田，佐藤，柴田，瀬戸，瀧田，南保，松井各委員，小野寺庶務主任。

新委員の出席に依り話題に活氣を呈す。簡單なる自己紹介を終へ直ちに振興策を練る。

土木技術者が比較的に惠まれぬ原因は種々あるとしても，其の最も大なる所以は多くの場合，企業提唱者でない事，技術者自身餘りに非社交的である爲，世人に其の眞價が認められず常に下積に利用されてゐる點等にあるとし其の打開策を協議し實現に邁進せん事を約す。

(1) 今日の如く多數の優秀なる新技術者が養成されし以上，学會の如き健全なる基礎のある團体が主体となり，先づ關係雜誌社等を動員し積極的に一般世人と談笑する機會を目論み，若き技術者の社交性の養成と技術並に技術者の紹介に努力すべきである。

(2) オリムピック，萬國博覽會等世人が關心を拂つてゐる國家的事業に對しては，学會內に直ちに委員會を組織し技術上の立場から意見を發表し世論を統一指導するが良い。

(3) 古來土木事業は純技術者たる形式をとつてゐない起業者と，それに從事せる筋肉勞働者或は其の監督者が代表して來た爲，計畫，設計に多大の苦心が拂はれてゐる點等は未だ認識され難い傾向がある。依つて文筆，映畫等により紹介をする場合には相當程度迄學理の応用を說明し重點を此處に置き一般人にも優秀なる技術者の必要なる事を直ちに認識し得られる樣考慮すべきである。

(4) 近き將來に實施されるであらう土木事業或は實現されても良い事業計畫等に對しては假令大膽に過ぎる事でも遠慮なく發表して實現の氣運を醸成すると共に併はせて技術者の社會的地位の向上を計るべきである。

第 1 回土木文化映畫作製委員會（昭 11. 11. 4）

出席者： 金森委員長，青木，大石，大島(代理山田)井平，澤，廣田各委員，井上會長，小野寺庶務主任。

井上會長より本委員會設立の趣旨に就き說明あり議事に移る。

決議事項

本委員會の作製する土木文化映畫は土木に關する技術を紹介普及し並に文化進展に重要なる役目をなしつつあることを認識せしめ進んでは本邦土木技術を世界に紹介するものなり。

事業計畫

1. 費用を要せざるもの。

(イ) 映畫ニュース製作者とタイアップし土木に關するニュース映畫を作製上映せしむ。

(ロ) 映畫會社の製作する映畫中本會の目的に副ふものあるときは其の後援をなす。

(ハ) 土木に關する映畫脚本にして興業價値あるものは映畫會社をして作製上映せしむ。

(ニ) 一般土木映畫作製の指導をなす。

2. 費用を要するもの。

(イ) 既製の土木映畫中より部分的に其の粹を集め一貫せる映畫を編輯す。(この費用 1m 當 60 錢とし約 200m とす)。

(ロ) 本委員會に於て映畫を製作し一般映畫館に上映せしむ。(この費用 1m 當 3 円とし約 400m とす，この場合に於ては上映料を徴收し支出を償ひ得べき契約を事前になし得る場合に實行す。)

本委員會の會計

1. 雜費年額 500 円とす。

2. 本會主旨に賛し寄附の申出あるときは其の受領をなす。

第 72 回講演會 (昭 11. 10. 23)

演 題： 土木工作物に對する爆彈の威力に就て

講演者： 陸軍省兵務局防備課員陸軍工兵中佐鎌田銓一君

來聽者： 120 名

講演會終了後有志晩餐會を開催せり。

出席者： 20 名

經理部記事

第 1 回土木学會財政調査委員會 (昭 11. 11. 6)

出席者： 前川委員長，佐藤，竹股，金子，藤田，大竹各委員，井上會長，萩原經理部長，柴原書記長

井上會長，本委員會設置に關する主旨を述べ土木学會の財政狀態の大約を説明し財政策確立の希望を述ぶ。

前川委員長，重要なる財政問題なれば責務を完ふするや否や疑問ではあるが委員各位と協力し御主旨に副ふべく努力せん。

議事に入る 本會 9 月現在財政狀態の概算表(省略)を配布す。

萩原部長より次の問題に付き意見を述ぶ。

1. 未納會費の處理。

2. 公債を他の確實なる有價證券に乘り換へるか或は公債を以て直に信託預金とし利廻りを高める事。

3. 廣告に關し會誌の記事と連絡せしめ廣告頁數の增加並に廣告料の增額等。

之に關し委員の討議あり次回に委員各自の意見を持寄ることゝす。更に委員より，賛助員を獲得すること及び各會社並に團体が寄附し易き樣に導く事，例へば土木学會が技術の相談を受くる目的の爲め技術顧問會を常置し積極的に宣傳し申込みを受けて技術に關し consult してやること。

以上何れも次回に於て委員各位の意見を取り纒める事とせり。

編輯部記事

第 11 回會誌編輯委員會 (昭 11. 11. 4)

出席者： 關委員長，板倉，岡崎，樫部，嶋野，廣瀬，長田，野坂各委員，藤井編輯部長，五十嵐編輯主任，中川編輯囑託

1. 第 22 卷第 12 號へ次の原稿を登載する事とせり。

講 演： 元北滿鉄路の保線に就て (趙成楷)

論說報告： 愛知縣名古屋清洲間國道 12 號改築工事並に其の經濟的效果に就て (會，山口十一郎)，トランシット並にワイレベルの叉線の完全整正法(會，新郷高一)。

彙 報： 大鳥川落合發電所工事概況 (會，鳴原長六郎)

時 報： 第 8 回國際道路會議の議題，道路改良會一號國道視察自動車旅行，江戸川水利統制，關門隧道地質調査，水道協會記事，神都計畫，都市計畫決定事項，阿仁合線全通

抄 錄： セメント及コンクリートの收縮に就て(平井)，伯林 Treskow 橋の架換(三好)，骨材運搬用木造トンネル(古河)，2 鉸拱の撓屈臨界荷重の計算(住友)，Darmstadt 道路研究所の研究事項(長瀬)，コンクリート道路の維持修繕に就て(谷藤)，變形を顧慮せる吊橋の近似計算(河上)，熱處理せる吊橋用ワイヤー試驗(中村)，Bay Bridge の補剛構架設(中村)，アスファルトコンクリートで固めた粗石堤(櫻木)，耐震的土堰堤(畠山)，基礎の一調査

22-12 b

方法(傍島), San Francisco 港概況(比田), コンクリートの 28 日强度の推定(谷藤), コンクリート道路横目地の构構造(長瀬), 必要安全率の問題に就て(藤田), 深海部の波浪のエネルギー(比田), サンゴタルド自動車隧道計畫(藤田), 經濟的社會的進步上より見たる鉄道運輸の功罪(藤田)。

新刊紹介: 3 件

2. 第 23 卷第 1 號登載論文を次の通り決定せり。

講　演: 土木工作物に對する投下爆彈の威力に就て(鎌田銓一)。

論說報告: 利根川河口の砂洲の變化に就て(會, 松尾春雄)。

彙　報: レムニスケート曲線表(會, 工博, 久野重一郎)。

抄　錄: 現場打コンクリート杭のデカロターヂュに依る施行(藤田), フオートペック堰堤に於ける餘水吐の水門及水路鋪裝(片平)。

特許紹介:

3. 講座新設に關しては具体案を第 3 部振興委員會にて審議中故その案に就き次回協議する事とせり。

調査部記事

第 4 回請負工事標準契約書調査委員會 (昭 11. 10. 9)

出席者: 近藤, 久保, 菅野, 三浦, 河西, 堀尾, 稻葉各委員, 沼田調査部長, 宮本, 宮長理事, 柴原書記長。

1. 近藤幹事の作製せる原案の內主として監督技師なる人格並に施行主との關係等に就き研究討議あり。

2. 我國の現狀に則したる案を得ることを第一義として次回は原案を草案として討議することゝす。

3. 監督技師なる資格を向上せしめたる理想案は追て考究することゝす。

第 5 回鋼橋示方書調査委員會 (昭 11. 10. 16)

出席者: 田中委員長, 青木, 尾崎, 成瀬, 西岡各委員, 友永幹事, 沼田調査部長。

1. 鋼鉄道橋設計示方書 (改正案) につき審議を進む,

沼田調査部長: 調査の各國鉄道橋示方書に依る風圧比較表(別紙)に付き討議あり, 橋桁二つ以上並列せる時は風下構に對してはすべて最風上構の 50% の風圧を考慮する事とし, 鈑桁に對しては風下桁に風圧を考へない事に決定す。

2. 同示方書第 6 條につき說明図を附す事とし第 6 條全文に付き改正原案作成を友永幹事に委任す。

3. 同示方書第 7 條縱荷重に對し, 列車始動による縱荷重を機關車働輪荷重の 25% とし列車制動に依る縱荷重を橋梁上活荷重の 15% とする事に決定す。

4. 同示方書第 8 條に付きては原案を認む。

第 1 回杭の支持力公式調査委員會 (昭 11. 11. 5)

出席者: 谷口委員長, 尾崎, 金森, 松村, 山口, 山田各委員, 石田, 藤森各幹事, 井上會長, 沼田調査部長。

1. 會長挨拶後金森委員より杭打公式調査制定の主旨, 理由に關する說明ありたり。

2. 各委員の自由討議暫時ありたる後, 委員長より委員會は理論を分擔する人と實際方面を分擔する人と手分をなして進むべきなりとの提言ありたり。

3. 上述の分擔に關しては次回迄考慮の上之を決定することゝせり。

4. この仕事の大なるに鑑み適當なる委員を增員することゝせり。

法制部記事

第 4 回行政機構改正調査委員會 (昭 11. 10. 8)

出席者: 三浦, 古川, 宮島, 兒玉, 三浦(貫), 高橋(嘉), 村上各委員, 井上會長, 宮長法制部長, 宮本理事, 柴原書記長, 小野寺庶務主任。

議事要項

宮長部長: 從來本委員會に於て攻究することゝしたる行政機構改正案なるものは次の 3 案であつた。

(1) 現在機構の儘として各省所管事項の連絡統制を圖るため內閣直屬の委員會を作ること。

(2) 各省の土木に關する施行だけを統一して土木省を作り連絡のため別に委員會を設くること。

(3) 施行と行政とを經めた大なる省(公共省)を作ること。

以上の內最も實現性のある第一案を研究することゝなつて居た, 然るに近日新聞紙上に報ずる所によれば軍部兩大臣より行政機構改正案を進言し現內閣組閣當時國民に公明したる國策の一でもあるとなし相當根强き軍部の主張の如く或は速急に行政機構改正の運びに

至るやも知れざる狀態である故に本委員會としても從來の考へ方を變更し軍部の主張する如き案を第一に攻究してかゝらねば間に合ぬ狀態に到る恐れがあるので期日を早めて第 4 回委員會を開いた次第である。

宮本理事：內閣調査局等に就て意見を徵したる結果によれば內閣の方針が何處にあるか，最も合理的に行政機構改革（大臣の數が增加しても）を行ふと言ふのか，或はむしろ省の廢合を行ひ大臣の數を減じ國策遂行を容易ならしめんとする方針なるや判然せざるも軍部の主張は恐らく後者であることは想像に難くない，然れば當分の間政黨が勢力を得難き今日軍部の主張するが如き案卽ち我々の考へてゐる第 3 案を攻究する方が得策と思はれる。

宮長部長：今までの考へ方を變更し第 3 案を第一に攻究することゝす。各委員より夫々意見が出て次の案を攻究することに意見の一致を見る。

◎交 通 省

鉄道部，通信部，土木部，航空部。

◎產 業 省

水利部，農林，商工省所管のもの

而して各部の內容に就ては夫々專門の委員により次回迄に具体案の作製を依頼することゝす。

鉄道部（古川委員），土木部（三浦(七)委員）

通信部，航空部(高橋(三)委員)，水利部(三浦(七)委員)。

第 5 回行政機構改正調査委員會（昭 11. 10. 28）

出席者：三浦，古川，堀越，後藤，高橋，兒玉，三浦(貢)，宮島，榧木，衣斐，加藤各委員，宮長法制部長，小野寺庶務主任。

議事要項

宮長部長：前回に於て申合せたる具体案の提示を求めらる。

古川委員：交通省案の作成に當り通信及郵便は交通省には直接の關係が少いので一省に之を入るゝことは問題である。

遞信省內の管船及航空燈臺以外の各局を除きたるものと然らざる案との 2 つを考へらる。

交通省（第 1 案）

- 交通省
  - 管船局
  - 燈臺局
  - 土木局——港灣，道路，都市計畫
  - 監督局
  - 運輸局
  - 建設局
  - 工務局
  - 工作局
  - 電氣局
  - 計理局
  - 總務局
  - 國際觀光局
  - 航空局(外局)

交通省（第 2 案）

- 交通省
  - 管船局
  - 燈臺局
  - 監督局
  - 土木局
  - 郵務局
  - 電務局
  - 工務局
  - 貯金局
  - 簡易保險局
  - 經理局
  - 總務局
  - 鉄道部
  - 航空局(外局)

三浦委員：案の作成に關し根本原理として國營事業(營利に關する)は財務省或は國營省として統一せしめ鉄道，遞信，その他の省の營業に關する事項を切り離して一省に纏めしむる案も考へらるゝこと。

之に關し各委員の間に於て論議を重ね各委員の說を總括して次の如く立案することとした。

- 交通省
  - 監理部
    - 總務局
    - 航空局
    - 監督局
    - 管船局
    - 經地計畫局
  - 工務部（計畫，監督，施行）
    - 總務局
    - 建設局
    - 工務局
    - 工作局
    - 電氣局
    - 燈臺局
    - 道路局
    - 港灣局
    - 遞信工務局
  - 營業部
    - 總務局
    - 營業局
    - 運送局
    - 自動車局
    - 觀光局
  - 通信部
    - 總務局
    - 郵務局
    - 電務局

尙局の名稱及その內容の研究に資するため各省の分課規程を集めること。次回に各委員の案を提示し協議すること。

第 3 回土木士法案調査委員會（昭 11. 10. 27）

出席者： 眞島委員長，高橋，樺島，江橋，增田各委員，宮長法制部長，柴原書記長。

議 事

1. 蒐集せる資料により各自意見の交換をなし次回迄にこの資料を更に研究して各自の意見を纒めることに申合せたり。

2. 大学關係者として山崎匡輔君を委員に追加することとせり。

座談として特許局審査官に土木技術者の增員を建議しては如何。

東亞部記事

第 1 回東亞調査委員會
第 4 回東亞連絡委員會（昭 11. 10. 7）

出席者： 中川調査委員長，久保田連絡委員長，櫻木谷口，三浦，淺間，古川，井上，森田各調査委員，山崎，成瀨，山中，永井各連絡委員，宮本理事，柴原書記長，小野寺庶務主任。

議事に先ち久保田連絡委員長の挨拶ありて後調査と連絡の仕事は共に東亞部に關せる事項に付合同の委員會を開く事が便利と思考す。

次で中川委員長の挨拶あり今後に於ても聯合委員會を開くことが必要である。

書記長より連絡委員會の經過を報告して議事に入る。

1. 交通大学設立に關する調査の件は調査委員會にて研究することゝす。

2. 該調査に關し調査委員會より特別委員並に幹事を選定することゝし中川委員長が東亞部長と協議して決定することゝせり。

3. 山中連絡委員を調査委員にも依囑することゝす。

座談に入り永井了吉君の出席を機會に滿支に關する話を聽く。

土木学會關西支部記事

第 6 回役員會（昭 11. 11. 4）

出席者： 清水支部長，佐藤，田淵，松田，澤井各商議員，島崎幹事長，鮫島幹事，後藤前支部長。

次の事項を協議せり。

1. 昭和 12 年度豫算の件，別紙（省略）の通り決定。
2. 見学會講演者謝禮の件。
3. 11 月下旬座談會開催のこと。
4. 支部創立以來の會員增加表（別紙省略）。

その他の記事

○昭和 11 年 10 月 22 日土木工事取締規則に關する建議をなせり。（會告參照）

○昭和 11 年 10 月 26 日關西地方風水害調査報告を豫約申込者に發送せり。

○昭和 11 年 10 月 30 日土木学會誌第 22 卷第 11 號を發行し成規の手續を了し 11 月 1 日全會員に配布せり。

入會及轉格會員

會 員（入 會）

松村恭二君 滿鉄東京支社鉄道課
野內安治君 鉄道省信濃川電氣事務所

准 員（入 會）

飯田好文君 靜岡市臨時下水道部
今村茂樹君 朝鮮總督府元山土木出張所
君城伊達男君 內務省淀川改修事務所
太田三郎君 株式會社鹿島組
岡部幸四郎君 鉄道省信濃川電氣事務所
加々美時寬君 京都府鴨川改修事務所
片岡喜一君
金洪祖君 中華民國北寧鉄路局工務處
小林泰君 京都府廳土木部
近藤繁人君 滋賀縣廳土木課
但馬巖君 京都府鴨川改修事務所
高野義雄君 尼崎市土木課
立花孝君 京城府廳水道課
古田吉太郎君 青森縣淺瀨石川改修事務所
幕田貞夫君 內務省東京土木出張所

澤 浩君 内務省東京土木出張所
学 承君 京都府鴨川改修事務所
渡邊三省君 滿洲國國道局北南派出所
渡邊俊臣君 朝鮮龍山鉄道局建設課工事係

学生員（入會）

藤 稔君 東京帝大
井一男君 武藏高工
野 勇君 東京帝大
川 元君 京都帝大
橋康次君 北海道帝大
田謙太郎君 日大工学部
屋正雄君 日大專門部
居 隆君 武藏高工
戸常美君 日大工学部
鄕司教保君 日大高工
坂本 清君 京都帝大
島村幹一君 日大工学部
關 福次郎君 〃
田中 清君 東京帝大
大長二郎君 熊本高工
高橋淳二君 北海道帝大
竹内一雄君 日大工学部
土肥三郎君 東京帝大
濱田穗祐君 武藏高工
堀 武男君 東京帝大
宮崎義成君 〃
吉田 登君 〃
吉原重明君 〃
井原壽夫君 熊本高工
市來高明君 東鉄教習所專門部

會員（転格）

山辰藏君 朝鮮總督府仁川土木出張所
谷新太郎君 東鉄所橋保線事務所
仙之助君 長野縣廳土木部
芝原信義君 大阪市土木部工務課
董 潔 忱君 中華民國國際平江和水委員會
中島 武君 長野縣廳土木部
向井俊一君 京都府鴨川改修事務所
菅野義三君 大日本電力株式會社
鈴木貞次君 〃

准員（転格）

保田敬一君 京都市電氣局工務課
野瀨正儀君 富士電力株式會社
深田譽薫君 京都市電氣局工務課

土木学會々員數

（昭和 11. 10. 26 現在）

會員	准員	学生員	特別員	賛助員	合計
2820	2703	559	3	20	6085

會員 大井田瑞足君 昭和 11 年 10 月 15 日逝去せられたり，本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり。

會員 神代雄三君 昭和 11 年 10 月 25 日逝去せられたり，本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表せり。

會員 工学博士大西大助君 昭和 11 年 10 月 30 日逝去せられたり，本會は弔詞を靈前に呈し恭しく哀悼の意を表したり。

准員 小林 清君，深田 清君の訃報に接す，本會は恭しく哀悼の意を表す。

會　　報

第22卷第12號　昭和11年12月

編輯事務報告

會誌編輯　從來會誌の編輯は編輯委員會が之を主に擔當して來たが，本年2月定款の改正に伴ひ，部制が敷かれ編輯に關する事項主管の編輯部の中に會誌編輯委員會が設けられ專ら會誌の編輯に當る事となつた。編輯の方針は從來とは大した變化はなかつたが，從來會誌はあまりに理論偏重であるとの難があり，又第3部振興委員會より會誌改革に關する提議もあつたので，會誌編輯委員會に於て數回に亙り會誌改革の方針に就いて審議を行つた。第3部振興委員會の提議の眼目は會誌の內容をもつと一般化し，学會の機關誌としての指命にこたえる樣，その爲には論文は別に論文集として發行すべしと云ふにあつた樣であつた。本委員會に於てもこの點充分審議を重ねたが，学會誌としての面目はどこまでも優秀なる論文の發表機關であり，機關誌としての指命は從來通りにて何等不都合なく行ひ得るとの結論を得，主力を會誌內容の充實に努める事とした。そして先づ第9號からは時報欄及新刊紹介欄を新設し，更に第10號からは會員の頁欄を設置して着々內容の充實を図つて來た。目下講座欄新設に就き協議が進められてゐる。

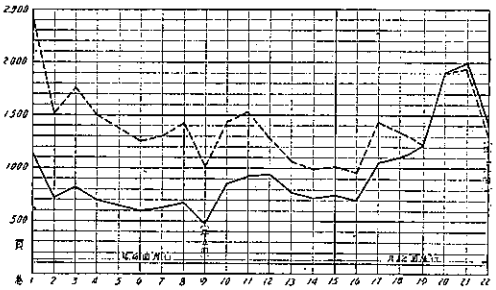
時報欄は土木工学，土木工事其の他土木に關する各種のニュースを出來るだけ廣範圍に蒐集し，土木界の大勢を知らんとするにあつて，その記事は学會員より廣く募集する事とゝした。その爲この記事蒐集斡旋方を本會地方委員に依頼し，又會告を以て公募し，更に地方在住の若い會員にも投稿を慫慂した。然しながら，之が反響は意外に少く，編輯委員自ら蒐集執筆するの止むなき狀態を續けてゐる。

新刊紹介欄は本會にて購入又は本會に寄贈を受けた新刊書內容を簡單に紹介し，本會図書室の充實を兼ねて專ら編輯委員が紹介の任に當つてゐる。

會員の頁欄は會員諸君の土木工学，土木工事，土木学會，土木技術社會に對する批判，時評，感想，希望等發表の頁として特に會員諸君の忌憚ない執筆を期待してゐるものである。最初その導きとして学會關係の數氏に特に執筆を依頼し，其の後會員諸君の投稿を待つてゐる次第であるが，之も期待に反し案外會員の熱意が現れない

以上の樣に會誌內容の充實に關しかなり面目を改めつゝ尙研究を續けてゐるが，本年は編輯部として臨時出版物が多くその爲本年は昨年に比し會誌の頁數はかなり減滅してゐる。図-1は第1卷より第22卷（本年）迄の頁數の表である。點線は全頁を表したものであるが，9卷までは活字の大きさが五號縱組（1頁に就き840字詰）であり，第10卷，第11卷は五號橫組（1頁に就き1080字詰）12卷から18卷8號迄は9ポ組（1頁に就き1312字詰）であつたが，18卷9號から8ポ組（1800字詰）に変更し，更に21

図-1. 卷別會誌頁數調（自第1卷至第22卷）



點線：實頁數
實線：8ポ換算頁數

図-2. 號別會誌頁數調（自第19卷第1號至第22卷第12號）

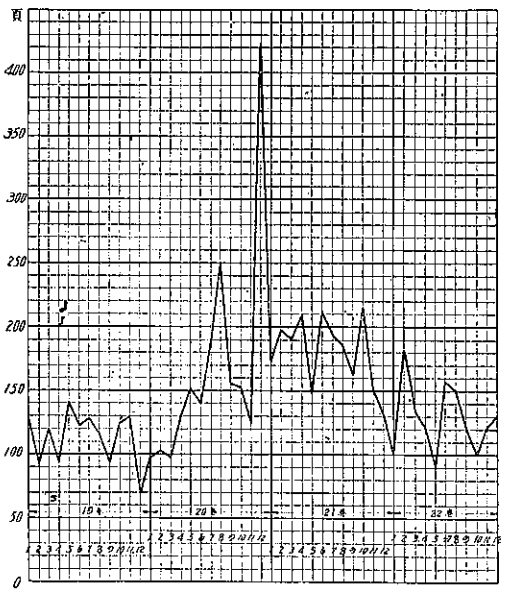


表-1. 自第 19 卷至第 22 卷會誌頁數及編數（弧括內は編數）

第 19 卷

號	講演	論報	計議	彙報	抄錄	特許	計	會務	其他	計
1	—	88 (3)	6 (2)	—	18 (4)	—	112	2	14	128
2	10 (1)	34 (2)	12 (2)	—	8 (3)	—	64	14	12	90
3	—	36 (2)	2 (1)	—	16 (3)	—	54	10	56	120
4	—	30 (3)	2 (1)	18 (4)	20 (6)	—	70	22	—	92
5	26 (2)	14 (1)	12 (3)	64 (8)	4 (2)	—	120	10	10	140
6	—	28 (3)	8 (3)	8 (1)	16 (6)	—	60	18	52	130
7	—	48 (3)	24 (7)	28 (2)	8 (3)	4 (4)	112	8	—	120
8	24 (3)	50 (3)	4 (2)	12 (1)	18 (7)	6 (5)	114	6	—	120
9	—	60 (3)	6 (2)	—	16 (5)	4 (6)	86	6	—	92
10	—	64 (2)	14 (4)	10 (2)	18 (5)	4 (8)	110	14	—	124
11	10 (1)	40 (1)	6 (2)	34 (4)	16 (7)	6 (14)	112	16	—	128
12	—	26 (2)	8 (1)	18 (3)	6 (3)	4 (9)	62	6	—	68
合計	70 (7)	518 (27)	104 (29)	192 (25)	164 (54)	28 (46)	1076	132	144	1352

第 20 卷

號	講演	論報	計議	彙報	抄錄	特許	計	會務	其他	計
1	—	46 (1)	4 (2)	16 (2)	16 (6)	4 (7)	86	12	4	102
2	—	48 (3)	4 (2)	2 (1)	30 (4)	6 (13)	90	12	—	102
3	—	30 (2)	2 (1)	28 (8)	12 (5)	10 (6)	82	22	—	104
4	—	50 (2)	6 (2)	28 (7)	16 (7)	4 (5)	104	24	—	128
5	—	34 (3)	30 (1)	40 (8)	18 (7)	4 (8)	126	14	12	152
6	16 (2)	78 (4)	12 (4)	16 (4)	4 (2)	2 (6)	128	14	6	148
7	8 (1)	118 (4)	2 (1)	28 (4)	10 (6)	2 (5)	168	16	—	184
8	16 (2)	122 (4)	26 (2)	6 (2)	12 (6)	6 (8)	188	12	76	276
9	—	98 (5)	6 (2)	28 (6)	16 (6)	2 (6)	150	6	—	156
10	—	108 (5)	4 (1)	12 (3)	18 (4)	4 (7)	146	6	—	152
11	12 (1)	48 (3)	10 (4)	16 (5)	24 (10)	2 (5)	112	12	—	124
12	366 (33)	—	—	—	—	—	366	38	18	422
合計	418 (39)	780 (36)	106 (22)	220 (50)	176 (63)	46 (76)	1746	188	118	2052

第 21 卷

號	講演	論報	計議	彙報	抄錄	特許	計	會務	其他	計
1	—	84 (4)	8 (2)	40 (6)	26 (8)	4 (10)	162	10	6	178
2	4 (1)	138 (5)	6 (2)	18 (3)	12 (4)	2 (7)	180	18	—	198
3	—	62 (3)	8 (3)	48 (5)	26 (9)	4 (8)	148	4	38	190
4	—	80 (5)	4 (2)	24 (5)	10 (6)	2 (5)	120	6	84	210
5	14 (2)	70 (4)	6 (3)	26 (4)	18 (5)	2 (6)	136	12	4	152
6	20 (2)	116 (4)	6 (2)	10 (3)	26 (12)	4 (12)	182	8	22	212
7	—	70 (4)	12 (3)	6 (1)	28 (19)	4 (8)	120	10	66	196
8	12 (1)	104 (4)	6 (2)	10 (3)	34 (28)	2 (10)	168	8	10	186
9	—	58 (3)	2 (1)	50 (7)	46 (25)	2 (8)	158	4	—	162
10	—	70 (3)	4 (2)	60 (9)	64 (40)	4 (6)	202	14	—	216
11	—	68 (4)	4 (2)	8 (4)	56 (31)	2 (5)	138	14	—	152
12	—	52 (2)	12 (2)	16 (3)	32 (22)	4 (15)	116	6	—	122
合計	55 (6)	972 (45)	78 (26)	316 (53)	378 (209)	36 (100)	1830	114	232	2176

第 22 卷

號	講演	論報	計議	彙報	會員頁	時報	抄錄	特許	新刊	計	會務	其他	計
1	18 (1)	38 (2)	—	16 (4)	—	—	22 (16)	2 (8)	—	96	6	8	110
2	4 (1)	112 (3)	8 (4)	22 (3)	—	—	20 (15)	4 (18)	—	170	12	—	182
3	—	48 (2)	10 (3)	20 (5)	—	—	48 (31)	2 (13)	—	128	6	—	134
4	—	58 (3)	18 (5)	—	—	—	34 (23)	2 (7)	—	112	8	—	120
5	4 (1)	24 (2)	2 (1)	16 (5)		—	28 (22)	2 (7)	—	76	14	—	90
6, 7	8 (2)	48 (2)	8 (2)	44 (3)	—	—	36 (22)	2 (7)	—	146	12	—	158
8	—	42 (2)	14 (2)	16 (5)	—	—	36 (24)	2 (10)	—	110	12	28	150
9	—	36 (3)	8 (3)	30 (2)	—	8 (8)	26 (21)	2 (8)	2 (7)	112	8	—	120
10	12 (2)	42 (2)	4 (1)	10 (1)	2 (2)	4 (7)	16 (8)	2 (15)	2 (8)	94	6	—	100
11	—	60 (3)	6 (1)	12 (2)	2 (1)	4 (7)	20 (17)	2 (10)	2 (5)	108	14	—	122
12	8 (1)	46 (2)	—	12 (2)	4 (2)	4 (8)	38 (22)	2 (3)	2 (3)	116	14	—	130
合計	54 (8)	554 (26)	78 (22)	198 (32)	8 (5)	20 (40)	324 (221)	24 (106)	8 (23)	1268	112	36	1416

卷 7 號からは抄錄及特許紹介の欄を六號組（2064 字詰）に変更した爲實頁數を 8 ポに換算して見ると図の實線の樣になる。この樣に會誌の頁の內容は近年急速に增加して來てゐる。

尙各號の頁數を調べて見ると図-2 の如く第 19 卷頃より漸增し，20 周年記念號を峠として漸次常態に復しつゝある。

第 19 卷より第 22 號迄の各號の論文編數及頁數を參考の爲揭げて見ると表-1 の如くである。本年は論文編數が割合少いが之は本年 4 月の第 3 回工学會大會に吸收された爲であらう。第 3 回工学會大會の論文は之を本誌第 6 號に登載すべく準備中であつたが，豫算の關係で別に發行する事となつたので，この機會に從來の懸案であつた會誌發行日の変更（25 日發行であつたのを 1 日發行に変更）を斷行する事とし 6 號と 7 號を合本として送つた次第である。從つて本年の發行部數は 11 册となつたが，實質的には 25 日發行が 5 日間遲れて 1 日發行となつただけで實際には減册はしてゐないわけである。

論文の種類に就て見ると表-2 の如く，第 21 卷第

表-2. 第 21 卷及第 22卷論文種類別頁數及編數（弧括內は編數）

第 21 卷

種類	講演	論說	報告	討論	彙報	抄錄	計
土木一般	26 (3)	—	—	—	33 (5)	3 (2)	62 (10)
応用力学	—	110 (7)	—	18 (6)	—	65 (29)	193 (42)
土質工学	—	38 (2)	—	3 (1)	—	20 (12)	61 (15)
水理	—	36 (2)	—	3 (2)	—	19 (19)	58 (23)
測量	10 (1)	14 (2)	—	9 (1)	—	3 (1)	36 (5)
材料施工	—	82 (3)	—	—	10 (2)	22 (14)	114 (19)
コンクリート	—	—	—	—	—	23 (17)	23 (17)
橋梁構造	—	14 (2)	136 (7)	12 (5)	72 (11)	126 (46)	360 (71)
河川	—	34 (1)	22 (1)	—	35 (4)	6 (5)	97 (11)
發電水力	—	8 (1)	—	5 (1)	67 (11)	—	80 (13)
堰堤	—	18 (1)	12 (1)	—	2 (1)	21 (6)	53 (19)
上水道	—	214 (6)	—	18 (5)	2 (1)	16 (13)	250 (25)
下水道	—	—	—	—	—	9 (6)	9 (6)
港灣	6 (1)	10 (1)	34 (1)	2 (1)	27 (4)	9 (7)	88 (15)
道路	8 (1)	—	42 (2)	2 (1)	—	7 (5)	59 (9)
都市計畫	—	—	—	—	10 (2)	4 (2)	14 (4)
鉄道	—	98 (3)	50 (2)	5 (2)	52 (10)	13 (7)	218 (24)
隧道	—	—	—	1 (1)	6 (2)	8 (5)	15 (8)
雜	—	—	—	—	—	4 (3)	4 (3)
合計	50 (6)	676 (31)	296 (14)	78 (26)	316 (53)	378 (209)	1794 (339)

第 22 卷

種類	講演	論說	報告	討論	彙報	時報	抄錄	計
土木一般	42 (6)	—	—	—	18 (3)	1 (2)	—	61 (11)
応用力学	—	4 (1)	—	8 (2)	9 (3)	—	21 (15)	42 (21)
土質工学	—	32 (2)	—	4 (1)	—	.5 (1)	18 (12)	54.5 (16)
水理	—	8 (1)	—	—	—	—	11 (9)	19 (10)
測量	—	36 (2)	—	9 (3)	—	—	1 (1)	46 (6)
材料施工	—	—	—	—	12 (2)	—	22 (17)	34 (19)
コンクリート	—	—	—	—	—	—	43 (25)	43 (25)
橋梁構造	—	44 (2)	36 (2)	17 (2)	3 (1)	2.5 (3)	55 (38)	157.5 (48)
河川	—	—	34 (1)	10 (2)	49 (3)	1.5 (3)	4 (4)	98.5 (13)
發電水力	—	24 (1)	32 (1)	3 (1)	38 (9)	—	—	97 (12)
堰理	—	24 (1)	—	—	—	3 (1)	32 (21)	59 (23)
上水道	—	36 (1)	—	2 (1)	—	.5 (1)	11 (10)	49.5 (13)
下水道	—	12 (1)	—	—	—	—	30 (18)	42 (19)
港灣	—	38 (1)	—	15 (7)	4 (2)	.5 (1)	21 (13)	78.5 (24)
道路	—	22 (2)	14 (1)	5 (2)	5 (1)	2.5 (4)	28 (20)	76.5 (30)
都市計畫	—	—	—	—	—	4.5 (7)	3 (1)	7.5 (8)
鉄道	8 (1)	150 (5)	8 (1)	5 (2)	50 (7)	3 (6)	11 (8)	235 (30)
隧道	4 (1)	—	—	—	10 (1)	.5 (1)	9 (6)	23.5 (9)
雜	—	—	—	—	—	—	4 (3)	4 (3)
合計	54 (8)	430 (20)	124 (6)	78 (23)	198 (32)	20 (30)	324 (221)	1228 (340)

22 卷共橋梁及構造物が編數に於て首位を占めてゐる。

抄錄に就ては特に昨年以來力を入れ毎月抄錄打合會を開いて昨年は福田委員，本年は野坂委員の盡力に依つて若い會員の向学指導を兼ねて會誌の面目を改めつつある。今抄錄の種類內容を見ると表-3 の如くである。

明治以前日本土木史 本會維新以前日本土木史編纂委員會に於て昭和 7 年より編纂中であつた明治以前日本土木史は昨年編纂を完了したので昨年中印刷配本を行ふ爲鋭意印刷事務を進めたが，資料の增補改訂等の爲遲延し本年 6 月末配本を開始するを得た。四六倍版全編 1746 頁の大册である。

第 3 回工学會大會講演集 本年 4 月東京に於て開催された第 3 回工学會大會にて土木に關し發表された論文は講演數 134 編提出論文數 54 編計 188 編の多きに達したが，この記錄を殘す爲本會に於ては莫大の費用を負擔して講演集を發行する事とし本年 1 月より準備を開始し大會前に講演論文の前刷を印刷に附し，更に大會後提出論文をも印刷にして全部で 920 頁に亙る大册を 7 月發行した。

表-3. 第 21 卷及第 22 卷抄錄頁數及編數（弧括內は編數）

種類	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
土木一般	—	—	—	—	—	1(1)	—	—	2(1)	—	—	—	3(2)
応用力学	10(3)	5(2)	12(4)	5(2)	3(1)	8(2)	3(3)	3(2)	2(2)	5(1)	—	9(7)	65(29)
土質工学	—	—	—	—	—	—	—	4(3)	3(1)	6(4)	4(3)	3(1)	20(12)
水理	—	—	4(1)	1(1)	4(1)	1(1)	2(1)	3(5)	1(3)	3(4)	1(2)	—	19(19)
測量	—	—	—	—	—	3(1)	—	—	—	—	—	—	3(1)
材料	—	—	—	—	—	5(1)	1(1)	—	3(1)	2(2)	1(1)	—	12(6)
コンクリート	—	—	—	—	—	—	4(3)	7(3)	3(2)	3(3)	4(4)	2(2)	23(17)
施工	—	—	—	—	—	—	—	1(1)	1(1)	5(4)	1(1)	2(1)	10(8)
橋梁構造	12(3)	4(1)	4(1)	—	8(2)	1(1)	10(4)	4(2)	19(7)	24(11)	32(11)	8(3)	126(46)
河川	—	—	2(1)	1(1)	—	1(1)	—	—	—	1(1)	—	1(1)	6(5)
發電水力	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
堰堤	—	—	4(2)	—	3(1)	3(2)	3(2)	3(3)	2(2)	1(1)	—	2(3)	21(16)
上水道	2(1)	—	—	—	—	—	3(2)	5(5)	1(1)	3(2)	—	2(2)	16(13)
下水道	—	—	—	—	—	1(1)	—	1(1)	—	1(1)	5(2)	1(1)	9(6)
港湾	—	—	—	1(1)	—	—	—	—	1(1)	2(1)	3(3)	2(1)	9(7)
道路	—	—	—	—	—	—	—	1(1)	3(2)	2(1)	1(1)	—	7(5)
都市計畫	—	—	—	—	—	—	—	—	3(1)	—	1(1)	—	4(2)
鉄道	2(1)	3(1)	—	2(1)	—	2(1)	2(1)	—	—	1(1)	1(1)	—	13(7)
隧道	—	—	—	—	—	—	1(1)	—	—	5(3)	2(1)	—	8(5)
雜	—	—	—	—	—	—	—	2(2)	2(1)	—	—	—	4(3)
合計	26(8)	12(4)	26(9)	10(6)	18(5)	26(12)	28(19)	34(28)	46(25)	64(40)	56(31)	32(22)	378(209)

第 22 卷

種類	1	2	3	4	5	6, 7	8	9	10	11	12	計
土木一般	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
応用力学	2(1)	3(3)	4(3)	3(2)	—	2(1)	2(1)	2(1)	—	2(2)	1(1)	21(15)
土質工学	—	—	3(2)	—	2(1)	2(1)	1(1)	5(3)	1(1)	3(2)	1(1)	18(12)
水理	—	1(1)	—	1(1)	—	—	7(5)	1(1)	—	1(1)	—	11(9)
測量	—	—	—	—	—	1(1)	—	—	—	—	—	1(1)
材料	—	1(1)	1(1)	—	—	—	4(2)	—	—	1(2)	1(1)	8(7)
コンクリート	4(4)	—	9(6)	1(1)	1(1)	4(2)	7(4)	4(2)	6(2)	1(1)	6(2)	43(25)
施工	3(2)	1(1)	3(2)	—	—	2(1)	—	3(3)	—	2(1)	—	14(10)
橋梁構造	1(1)	5(3)	12(6)	13(9)	1(1)	3(2)	3(3)	2(2)	2(2)	4(3)	9(6)	55(38)
河川	—	1(1)	1(1)	—	—	—	—	2(2)	—	—	—	4(4)
發電水力	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
堰堤	6(2)	2(2)	7(4)	4(2)	4(4)	—	3(2)	3(3)	2(1)	—	1(1)	32(21)
上水道	2(2)	—	—	1(1)	—	4(3)	1(1)	1(1)	—	2(2)	—	11(10)
下水道	2(1)	—	3(2)	5(3)	9(5)	8(5)	—	1(1)	2(1)	—	—	30(18)
港湾	—	—	—	5(3)	5(3)	6(3)	—	—	—	1(1)	4(3)	21(13)
道路	2(3)	1(1)	3(2)	—	4(5)	1(1)	3(2)	—	3(1)	2(1)	9(4)	28(20)
都市計畫	—	2(1)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3(1)
鉄道	—	—	—	—	1(1)	1(1)	5(3)	2(2)	—	—	2(1)	11(8)
隧道	—	—	1(1)	1(1)	—	2(1)	—	—	—	1(1)	4(2)	9(6)
雜	—	2(1)	1(1)	—	1(1)	—	—	—	—	—	—	4(3)
合計	22(16)	20(15)	48(31)	34(23)	28(22)	36(22)	36(24)	26(21)	16(8)	20(17)	38(22)	324(221)

昭和 10 年臺灣中部地方震害調査報告 昨年 4 月臺灣中部地方を襲つた大震災の記錄を留める爲本會臺灣地方震災調査委員會にて調査せる報告を編纂し土木学會誌第 22 卷第 8 號附錄として發行した。內容 28 頁である。

昭和 9 年關西地方風水害調査報告 昭和 9 年關西地方を襲つた大風水害の記錄を留める爲本會關西風水害調査委員會にて調査せる報告を編纂し內容 232 頁に亙る册子として發行した。7 月より印刷準備を開始し，10 月發行の運びとなつた。

昭和 11 年土木学會鉄筋コンリート標準示方書及同解說 昭和 6 年本會コンクリート調査會にて編纂せる示方書及同解說を基として，今回コンクリート調査委員會にて改訂せられた昭和 11 年版を發行する爲 8 月より印刷準備を開始し，10 月發行の運びとなつた。昭和 11 年版は示方書は四六版 58 頁、解說は菊版 18 頁である。

丹那隧道工事誌 鉄道省熱海建設事務所編纂にかゝる丹那隧道工事誌は本邦隧道工事界に於ける誠に有益なる資料なるに鑑み特に本會々員に配布する爲同事務所の了解を得て之を本會に於て再版する事となり，月より準備を開始し石版印刷として 11 月發行を見るに至つた。

土木工学用語集 本會用語調査會に於て昭和 3 年より調査中であつた土木工学用語が本年漸く調査の完了を見たので，之を土木工学用語集として發行する事とし本年 1 月より印刷準備を始め 11 月 15 日發行の豫定であつたが配本は 12 月中旬となる。A 列 6 號約 600 頁である。

會　告

土木学會年次学術講演會開催豫告

本會常議員に於て決議になりました年次学術講演會第1次大會を昭和12年4月京都帝國大学内に於て開催することに決定致しました，詳細は1月號會誌上にて發表致します。

常議員會決議の年次学術講演會要綱

一. 東京其の他大学又は専門学校所在地を選び毎年4月土木学術講演會を開く但し日本工学會大會開催の年は本講演會を開催せざるものとす。

一. 講演會は凡て日本工学會大會土木部會に準じ會員より論文の提出及其の講演を求むるものとす。

一. 講演會の日數は2日間とし何れも午前中を講演，午後を視察見学とす。

一. 毎年の開催地及開催期日は理事會に於て之を定め毎年1月會誌上に豫告するものとす。

一. 開催地の学校當局及在住會員に講演委員會の設置を求め講演會開催に關する事務を依囑す。

一. 講演會開催に關し直接必要とする經費は本會に於て之を負擔す。

一. 講演會には會長之に出席す會長事故あるときは副會長の内1名之に出席す。

土木学會役員（昭和11年度）

理事

會長 井上秀二　副會長 平井喜久松　副會長 辰馬錄藏
總務部長 宮本武之輔　經理部長 萩原俊一　編輯部長 藤井眞透
法制部長 宮長平作　調査部長 沼田政矩　東亞部長 後藤宇太郎

常議員

內田莊一　小野基樹　加藤貢　蒲孚　河口協介
菊池英彥　後藤宇太郎　後藤茂　關信雄　立花次郎
鶴田勝三　沼田政矩　萩原俊一　平山復二郎　藤井眞透
堀越清六　宮長平作　宮本武之輔　山田隆二　吉田直

前會長

野村龍太郎　原田貞介　古川阪次郎　岡野昇　田邊朔郎
中川吉造　那波光雄　名井九介　眞田秀吉　久保田敬一
青山士

關西支部役員

支部長 清水潤
商議員 有光正　奥中喜代一　澤井八洲男　佐藤鼎
田淵壽郎　坪井豐彥　中川幸太郎　糠澤惟助
橋本敬之　原田類助　松田健作
幹事長 島崎孝彥　庶務幹事 鮫島午吉
會計幹事 柴田辰之進

昭和11年11月25日印刷　昭和11年12月1日發行（非賣品）

編輯兼發行者　東京市小石川區久堅町40番地　柴原龍兒
印刷者　東京市神田區美土代町16番地　島連太郎
印刷所　東京市神田區美土代町16番地　三秀舍

東京市麴町區丸ノ內3丁目6番地

發行所　社團法人 土木學會

電話 丸ノ內(23) 3945番　口座東京16828番

會　告

丹那隧道工事誌頒布に就て急告

丹那隧道工事誌が漸く出來上りましたので 11 月 16 日より豫約申込の方々へ配本を開始致しました，若し不着の場合は御照會を願ひます。

本書は鉄道省が本會に特に複製出版を許されました誠に貴重な資料であり且つ今回限り絶版となります關係上餘分に製本致しましたから御希望の方は好機を逸せず，至急御申込下さい，3 円 50 錢（外に送料東京市内 12 錢・内地 33 錢・臺灣，樺太，朝鮮，滿洲 62 錢）で御頒ち致します。

御住所不明會員に就て御願ひ

下記諸君は転居先の御通知がないため，會誌の配布を始め，その他の諸通信が出來ませんのは誠に遺憾であります。どうぞ知人の方は御手數恐入りますが，御本人に御注意下さるか本會にその住所又は勤務先を御知らせ願ひます。

會　員

荒川參太郎君	稻葉彌吉君	木村貫一郎君	小林源次君
轟　增能君	丸林筑郎君	山本保之助君	

准　員

和泉高嚴君	池田乙次郎君	池田角太郎君	柿崎景久君
田中武次君	坪井　基君	緒方政雄君	大森鶴吉君
佐藤典吉君	徐三善君	萩原官六君	菊池三吉君
栗田忠治君	小林義雄君	田所要吉君	野口金太君
關　佳夫君	曾我　進君	福島　保君	船橋貞一君
高橋理三郎君	本橋二郎君	吉見胤隆君	中野順太郎君
難波壽一君	吉田二億君	劉作禮君	濱崎禎四郎君
平本源太郎君	藤村禮士君	城内清太君	水原譽文君
宮田　肇君	片岡　幡君	山田政次郎君	横田清治君
石原三郎君	齋藤賢策君	多田安三郎君	

工事寫眞募集

工事中又は竣功せる工事の寫眞を募集致します。寫眞にはその工事の簡單なる説明を御記入下さい登載の分には薄謝を呈します。

會　告

土木工学用語集本月15日配本

曩に豫約申込を受けました本會發行の土木工学用語集の發行は印刷製本の都合で遲延致し，申譯ありませんでした。愈々來る 12 月 15 日迄には送本出來る事となりましたから御了承下さい。

昭和11年
土木学會

鉄筋コンクリート標準示方書及同解説發行

昭和 6 年土木学會鉄筋コンクリート標準示方書は今日既に 5 箇年を閲し，其の內容に關し改訂を要する點多きを認め目下本會コンクリート調査委員會に於て之が調査中なるも，差當り術語を工学會規定の用語に改め，骨材試驗用の篩を日本標準規格に改めたる昭和 11 年版が出來ましたから御希望の向は本會宛御申込下さい。大きさは携帶に便なる樣示方書は四六版，解説は菊版とし，定價は示方書及解説を合せて 1 円であります。

時　報　記　事　募　集

本誌に時報欄を新設して，下記內容の記事を掲載する事に致しましたから適當なる記事の御投稿を御願ひ致します。

A. 土木工事の計畫，設計，施工の進捗，竣功の狀況，金額等のニュース

B. 土木工学界の內外学協會，調査會，委員會等の設立，調査研究事項並に報告其の他會議，催物の簡單なる紹介

C. 官廳，會社，公共團体の組織，事業に關するニュース

D. 法規，示方書，規定等の紹介

會員の頁記事募集

金度會誌に「會員の頁」を新設する事と致しました。この欄は會員諸君の土木工学，土木工事，土木学會，土木技術社會に對する批判，時評，感想，希望等御發表の御利用に充てたものでありますから振つて御投稿を御願ひ致します。

會　　告

本會は常議員會の決議を經て土木工事に關する取締法規の完備方に關し，

內閣總理大臣　廣田弘毅閣下

內務大臣　潮惠之輔閣下

法制局長官　次田大三郎閣下

に下記の建議をなせり。

建　　議

政府ハ速ニ土木工事ニ關スル取締法規ヲ完備シ全國ヲ通ジテ一貫セル方針ノ下ニ之ガ取締ヲ勵行セラレムコトヲ望ム。

理　　由

國運ノ進展ニ伴ヒ地方開發產業振興，災害防除等ヲ目的トスル各種土木施設ハ漸增ノ趨勢ニ在リ土木工事益々殷盛ナラムトスルニ當リ各府縣ニ於ケル之ガ取締ノ現況ヲ見ルニ河川法，運河法，道路法，公有水面埋立法各關係法規竝大正 11 年 5 月內務省訓令第 6 號ニヨルモノヽ外左記事項ニ付取締規則ヲ存スルモノ 22 府縣，河川工事取締規則ヲ存スルモノ 8 府縣ニシテ他ハ何等ノ取締規則ヲ有セズ各種土木施設ニ關スル計畫及施工ノ適正ヲ缺キ之ガ利用上遺憾ノ點少カラザルハ勿論，災害ヲ誘發シテ國土ノ保全，人命財產ノ保安ヲ脅威スルモノ極メテ多シ政府ハ此ノ現況ニ深ク鑑ミル所アリ速ニ土木工事取締ニ關スル法規ヲ完備シ全國ヲ通ジテ一貫セル方針ノ下ニ之ガ取締ヲ勵行スルヲ以テ喫緊ノ要務ト認ム。

記

一．河川法ノ適用又ハ準用ナキ河川ニ關スル工事及同上河川ニ於ケル其他ノ土木工事。

一．道路法ニヨラザル道路ニ關スル工事、

一．運河法，河川法ニヨラザル湖沼，運河，用惡水路，溜池等ニ關スル工事。

一．公有水面埋立法，大正 11 年 5 月，內務省訓令第 6 號ニヨラザル港灣設備ニ關スル工事。

一．其他一般土木工事。

右本會常議員會ノ議決ヲ經テ及建議候也。

昭和 11 年 10 月 22 日

社團法人土木学會

會長　井上秀二

會　告

図書室及娯樂室御利用に就て

本會所有の図書及雜誌は本會図書室に備付けてありますから、下記時間内御随意に御閲覧下さい。尚娯樂室には碁、將棋盤を備付けてありますから御利用を御願ひ致します。

自9月1日至12月31日
自1月1日至7月20日　自午前9時至午後8時　自7月21日至8月31日及土曜日自午前9時至午後4時

但し日曜日及祭日休。

図書御寄贈の御願ひ

本會は本會所有の図書雜誌を整理し、図書室を設備致しましたが又新に本會誌に新刊紹介欄を設け、新刊書の内容を紹介する事に致しましたから、會員の著書其の他図書雜誌は大小に拘らず學會宛御寄贈下さる樣御願ひ致します。

徽章佩用に就て

本會の徽章は一般會員の方々に必ず佩用して頂く事に致してあります。講演會、見學會其の他事務所御利用には徽章佩用を必要としますから、未だ佩用せられない方は至急御申出で下さい。

1. 徽章の寸法　径 14 mm
2. 品種　銀地金文字浮出し
3. 種類　詰襟服用と背廣服用の別あり
4. 實費　金 50 錢（郵送の場合は外に書留郵便料 1 個に付金 13 錢を要す）

會員転居転勤の場合の注意

會員の御転居又は御転勤の場合は即時明細に御通知下され度し。

會費納付に付き注意

會費	會員種格	會費年額	第1期分 (1月～6月)	第2期分 (7月～12月)
	會員	金12円	金6円	金6円
	准會員	金9円	金4.50円	金4.50円
	学生員	金6円	金3円	金3円

新入會者は月割計算とす。

納期　第1期分　3月　第2期分　9月

納付方法　集金郵便を差向けます（旅行等にて御不在の場合も拂込に支障なき様御配慮下さ
い）。

振替郵便御利用の場合は**振替口座東京16828番**へ願ひます。

朝鮮、滿洲の一部等振替貯金を取扱はざる地に居住せらるゝ會員は朝鮮の郵便為替
其その他の方法に依り御送金相成たし。

（會費一時納付の御厚志の場合は謹み御通知下されたし。）

未納の場合　集金郵便に對し故なく支拂を拒絶し又はその他の方法により御送金なき場合は會則
滯納者として遺憾ながら定款第2章第14條第1項に依り會誌の配布を停止せら
れます。

會誌未着の場合の注意

會誌は毎月1日に發行し漏なく配布致しますから、未着の場合には直ちに本會に御申出下さい。
發行後數ヶ月經過しての申出は時に發行部皆無となり配布不可能の場合があります。

會誌編輯委員

委員長　[illegible]

委員　伊藤健雄　板倉[illegible]　稲葉通彦　大久保一郎
岡崎三吉　加藤代平　櫻部保　鳴野貞三
鈴木清一　長田武三郎　野坂孝也　廣田孝太郎

既刊會誌殘部內譯

（● は殘部有るもの を示す）

號	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	金額（1部）
卷													(円)
5	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
6	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
7	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.50
8	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2.00
9	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2.00
10	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2.00
11	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2.00
12	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2.00
13	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	12.00
14	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	2.00
15	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
16	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
17	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
18	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
19	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
20	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
21	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00
22	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1.00

第 20 卷第 12 號（創立 20 周年記念號） 1.50
第 21 卷第 7 號（會誌索引付） 1.30
震害調査報告書(1,2,3) 18.00
応用力学聯合大會講演集 1.00
鉄筋コンクリート標準示方書 / 同　上　説明 1.00
土木工学論文抄録 3.50
土木学會誌索引(第 1 卷第 1 號—第 20 卷第 12 號) 0.50
昭和 9 年關西地方風水害調査報告 1.80

上記殘部會誌御希望の場合は所要金額を振替口座東京 16828 番に拂込用紙通信欄にその旨記入請求せられたし。

廣告料

普通廣告　1 回 1 頁　35 円　1 回半頁　20 円

指定廣告
- 裏表紙 3 面對向及廣告初頁　1 回 1 頁　40 円
- 裏表紙 3 面　1 回 1 頁　70 円
- 色 7 ー ト　1 回 1 頁　60 円

○指定廣告は凡て 1 箇年継続申込のものに限り取扱ふものとす

○會員自身の廣告に對しては總て上記料金の割引とす

○同一廣告の連続掲載申込に對しては 1 年 4 回以上 1 割引とす

○廣告に寫眞版又は木版等を挿入する場合は之に要する實費を別に申受くるものとす

DOBOKU-GAKKAI-SI.

(JOURNAL OF THE CIVIL ENGINEERING SOCIETY.)

VOL. XXII. NO. 12. DECEMBER 1936.

CONTENTS.

Page

Proceedings of the Society. 99

Adress.

On the Maintenance of Way of the North-Manturia Railway.

By Cheng Kai. Chao 1153

Papers.

On the Construction Works of the 12th State Highway between Nagoya and Kiyosu in Aiti Prefecture & its Economical Effects.

By Tôitirô Yamaguti, C.E., Member. 1161

Integral Adjustment of the Cross-Hairs in a Transit and a Wye Level.

By Takaiti Singô, C.E., Member. 1175

Notes on Matters of Interest. 1207

Our Members Say. 1219

Current Notes. 1223

Abstracts of Selected Articles. 1227

Patent News. 1265

New Publications. 1267

OFFICE

No. 6, 3-TYÔME, MARUNOUTI, KÔZIMATI-KU, TÔKYÔ, JAPAN.